



●主査の締め括り

まずは2点お知らせします。

①「主査募集の結果について」

主査の立候補には返信がありませんでしたので、研究会通信 No.443 に基づき、以下を現主査の一任とさせていただきます。

- ・「新主査の指名」
- ・「2025 年度幹事会組織の決定」
- ・「色彩教材研究会の名簿リセットと再構築」

②「名簿リセットと再構築について」

以前に、研究会通信およびメールにて周知しました「名簿アップデート」は、全会員に対し、24 件の回答のみに留まりました。原因は、メールアドレスの変更などによる受信不可によるところが大きいと思われ、心機一転の意味も込め、今年度末をもって「リセット」とさせていただき、詳細は新年度に研究会通信および学会メールにてご案内しますので、よろしくお願いたします。

これで、合計5年間の主査の仕事が終わりました。最初の主査時代に「カラーチャットセッション」、そして2回目は「色彩教材ギャラリートーク」を立上げ、一定の爪痕は残せました。

あとは後進に託します。

(吉澤陽介 主査より:035)

●「色即是空」とは

仏教のお経に「摩訶般若波羅蜜多心経」という有名な短いお経がある。

その始めの方に、「色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識 亦復如是」という文章が出てくる。

色彩を対象にして研究をしている色彩学会員にとって、理解しておかなければならない一文と思われる。

「色は実態のない空なるものであり、実体のない空なるものは色である。」「色は実体のないものであり、実体のないものは色である。」ここで色は物質的な現象を指しており、物質的現象とともにすべての存在を構成している「受想行識」という人間の感覚、イメージ、心の動きも、さらに知識も、物質的現象である色の場合と全く同じと説いている。

目の前に、赤い椿の花が咲いているとしよう。その赤という色が無くなったら、花の存在も無くなると考えると、色は色即是空と言える。

仏説では、「色」を単なる色彩という解釈ではなく、物質的な現象全体と捉えており、しかもそれらの実体が無いことを認識することにより苦悩や災いから超越できるとした。

(永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 77ーこ

香衣：こうえ。薄赤に黄を帯びた香染の僧衣。のちには青・黄などの僧衣にもいう。

黄衣：こうえ。浅葱色の袍。無位の人が着用する。僧の着る黄色の法衣。

紅衛兵：中国の文化大革命で、一九六六年に毛沢東の指導のもとに作られた青少年の組織。のち、極左主義と内部分裂で崩壊。

紅炎・紅焰：こうえん。くれないの炎。太陽の彩層からコロナの中に立ち上がる炎状のガス。

黄鶯：こうおう：コウライウグイスの別名。

紅黄草：こうおうそう。マリーゴールドの別名。

黄屋：こうおく。昔、中国で天子の乗る車をおおう、きぬがさ。転じて天子・帝王を敬っていう語。

紅花：こうか。赤い色の花。ベニバナの花を乾燥させたもの。

紅霞：こうか。くれない色のかすみ。夕焼けなどでくれない色に染まった雲。

黄河：こうが。中国第二の大河。

黄海：こうかい。中国と朝鮮半島との間の海。

紺搔き：こうかき。染物屋。こんや。こうや。こんかきの音変化。

*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)